

(2) 団員 梅田 洋一

はじめに

本訪問は、令和6年4月の友好都市提携時、本市に多くの現地関係者が訪れたことに対する答礼としての意義がある。

議会としては、まずは相手議会、議員との交流、親交を深めることが目的である。

また委員会としては、文教分野の観点で、移民の歴史や留学制度など教育を中心とした視察ができればと臨んだ。

◎ 1 日目

「ハワイ日系人会館」

移民の歴史を本市でも伝承していくため、特に日系人の活躍や当時の苦悩などを確認できればと視察に臨んだ。

人々が集う場所である「GARAGE」（ガレージ、車庫）と名付けられた展示室には、現在の日本にも残っていないような多くの展示棚には貴重な品々が展示されていた。

説明のなかで、移民当初は、他のアジア系移民と一緒に、同じ釜を囲んで生活していたとの言葉が印象的であった。また、昭和16年（1941年）の真珠湾攻撃後、日系2世は、捕虜収容所への収容を免れるため、そして、アメリカ合衆国への忠誠を示すため、アメリカ兵として志願したとの歴史も語られた。

私自身も被爆3世であることを踏まえ、史実に目を背けず、戦争があったことを伝承していくことは大切であるが、相手国への非難ではなく、未来に向かって何ができるのかという観点で次世代に伝えていきたいと

の想いを強くした。

さらに、現地で暮らす通訳の日本人の方から、当時の移民日系人の活躍により、現在も日本そして日本人への理解が深いため、ハワイ島での生活や仕事はしやすいとの意見が聴け、大変誇らしい気持ちとなった。

「イミロア天文学センター」

ハワイ大学ヒロ校内にある施設のため、当初は日本人の進学や留学状況などを確認できればと思っていたが、結果としては天文学センターの展示やプラネタリウムを視聴して、ハワイの成り立ちを確認するにとどまった。

一方で、ここで感じたことは、本市には本市全体の歴史を総括して伝えていく施設がないため、今後新築移転が予定される宮島歴史民俗資料館内において、宮島を中心としながらも、今回の移民の歴史も包含した本市の歴史が伝えられるようなコーナーを設置することも考えられるのではないかとの強い気づきを得た。

「ハワイ郡長オフィス主催によるヒロ・ハワイアン・ホテルでの歓迎レセプション」

本訪問最大の約90名が参加するレセプションであった。レセプションの前には、現地和太鼓によるパフォーマンスがあり、最後の演目「SOUVENIR」（スーベニア、お土産）と題された意味が「自由な精神」と聞かされ、文化や友好の精神は国境を越えると確信できる感動的な瞬間であった。

レセプション内では、ともにフラを踊るなどして親交を深めることが

できた。本市でもフラの愛好者は多いので、フラによる市民交流の機会創出は可能ではないかと感じた。



レセプション前の
和太鼓パフォーマンス



レセプション時のフラ

◎ 2 日目

「ハワイ火山国立公園」

ハワイ火山国立公園では、世界自然遺産(宮島は世界文化遺産)に関する現地教育の状況の確認を当初の目的としたが、実際は公園内を見学する中で、ハワイ人の先祖代々の言葉であるハワイ語の復活に至る話を道中で聞くことができ、感銘を受けた。

本市は、多くある自然の魅力を十分に商業的に生かしておらず、教育の側面からも、文化的な歴史だけでなく、もっと自然的な成り立ちに焦点をあてることができれば、キラウエア火山に倣い、ストーリー性をもったコンテンツになり得る可能性があると感じた。

「カメハメハ大王像」

ハワイ島は元来王国であり、現在もハワイ島の土地は、カメハメハ財団またはハワイ州の所有となっているため、戦略的な開発ができるとのことであった。

ハワイは、アメリカに統合され、ハワイ独自の文化や言語が消滅の危

機にあり、その文化や言語を守るため、名門私立学校であるカメハメハ・スクールでは、あえてハワイ人を先祖に持つ人への教育が行われていることなども聞かされ、あらためて国際教育において、まずは相手国とは前提条件が違うことを認識しなければいけないことを痛感した。

そして、本市で将来活躍する人材は本市で育てる気概が大切であると感じた。

「K T Aスーパーマーケット」

旧地御前村出身のタニグチ氏の名前に由来するスーパーマーケットであり、日本食材が豊富なため、現地の日本人の方は他よりもK T Aをよく利用するとのことであった。

「K T A」とは、「K T」はタニグチ氏のイニシャルであるが、当時同じイニシャルの同業者がおり、荷受け時によく間違えられたため「A」を付け加えたことがタニグチ氏の子孫から明かされ、現地で暮らす日本人も知らなかった事実が判明する驚きの現場に遭遇することができた。

店内には暗号資産への両替機が設置されていることに驚くとともに、文化の違いだけでなく、日本にはない先進事例も本市に伝えていくことは、教育や交流には大切なことではと感じた。



K T Aスーパーマーケットに
設置されていた暗号資産への両替機

「ブルーオーシャン養殖場およびビッグアイランド養殖場」

ブルーオーシャン養殖場では、カンパチを、ビッグアイランド養殖場では、アワビを養殖しており、莫大な投資と試行錯誤の結果、ようやく商業的な収支となりつつあるとのことであった。

周辺には海洋学の学校もあるとのこと、商業と教育が一体となっていることは、本市も目指すべき方向性であると感じた。

「ハワイ郡議会、東ハワイ広島県人会主催のビッグアイランド養殖場での夕食」

議会として本訪問最大のイベントであるハワイ郡議会との交流の場となった。

多くのハワイ郡議会議員も出席し、選ばれる仕事である議員であることの苦悩なども共有することができ、議長以下3名の訪問者が公式に挨拶できる唯一の場となった。



NPO法人職員日本語教師のナリタ氏



ハワイ郡議会主催の夕食時における議長と議員の挨拶

◎ 3 日目

「グリーンウェル農園」

グリーンウェル農園では、コーヒーの種苗育成から焙煎、出荷まで行っており、そのすべてを見学することができた。

コーヒーだけでなくオレンジ、アボカドや胡椒も栽培しており、やはりここでも日系人が活躍してきた歴史を確認することができた。

こういった理解の高い場所を今後計画されるであろう廿日市市民の派遣事業や交流の際の見学プログラムに組み込むことは有用であると感じた。

「コナワエナ高校」

コナワエナ高校は、13 学年制の公立小中高校であり、「ワイルドキャット」をシンボルとしている。

動物をモチーフとすることで学校への帰属意識が醸成されるのではと感じたため、本市の学校にも提言してみたい。



コナワエナ高校出身の
英雄エリソン・オニヅカ氏

学校としての、交換留学制度はなく、コロナ禍前までは沖縄県人会がスポンサーとして久米島高校と交換留学をしていたとのことであった。

学校や行政が主導するのではなく、民間のスポンサー団体が主体となって学校は受け入れるのみの立場のようであった。

「ロイヤル・コナ・リゾート主催によるお別れディナー」

ホテル主催のお別れディナーでは、一般客に混じり、リラックスした雰囲気の中で相手方と最後のコミュニケーションを図った。

ハワイ郡長と松本市長によるダンス、ハワイの夕日を背景に同行の藤井さんによるけん玉パフォーマンスが披露され、本市の魅力をアピールする絶好の機会となった。

◎ 4 日目

「ウエスト・ハワイ・シビックセンター」

ハワイ郡庁のウエストハワイシビックセンターを訪問した。ハワイ郡の庁舎は、ハワイ島の東側にあるヒロが本庁で、この西側のコナウエストは支所的な役割となっている。

もともとは、すべての公共機能が本施設にあったが、人口増加に伴い、免許センターや裁判所などは近隣に分散したことを聞かされた。

日本では人口減少により公共施設は集約していくことが当たり前という感覚では理解できないことである。

ここでも相手との前提条件を認識しなければ理解できないことを痛感した。



ウエスト・ハワイ郡庁舎内にあるサテライトの議場

おわりに

本訪問で見かける求人広告がいずれも最低時給約 2 千円であることが確認でき、日本との経済環境の違いを実感することができた。

ハワイ郡のホームページに「訪問者が温かい歓迎を受け、地元の文化を深く体験し、相互の尊敬と理解を深める保証します。」とあるとおり、どのレセプションでも手厚い歓迎を受け、改めて「おもてなし」の重要性を再認識した。

相手議会議員の任期は 2 年であり、期数も 4 回までとのことであり、その苦悩について語り合うことで特に親交が深まった。

日本にも多くの友好都市を持つハワイ郡であるが、本市は特別視されていることを実感した訪問であった。